

栗田工業株式会社

2015年3月期
第2四半期決算説明会



(証券コード: 6370)

2014年10月31日

I 2015年3月期上期実績

II 2015年3月期通期計画

III 事業環境と今後の見通し

IV ドイツBK Giulini社の事業の買収について

参考資料

2015年3月期上期実績

1. 業績ハイライト
2. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率
3. 水処理薬品事業
4. 水処理装置事業（電子産業向け）
5. 水処理装置事業（一般産業向け）
6. サービス事業売上高内訳
7. 海外事業（地域別・事業別売上高）
8. 設備投資・減価償却費・研究開発費
9. 財政状態

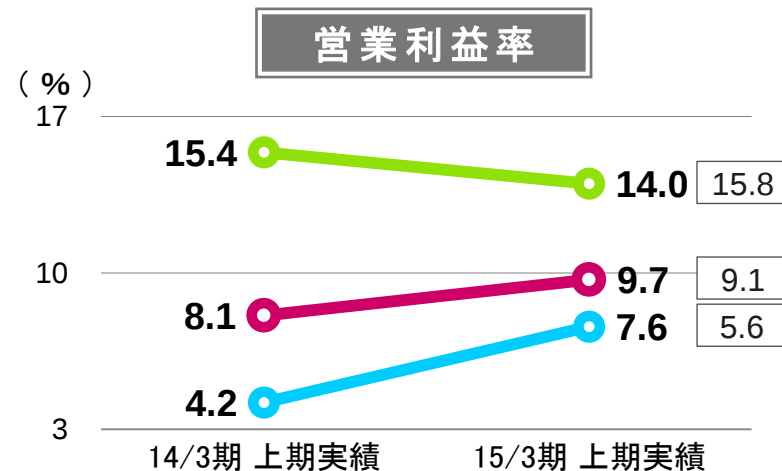
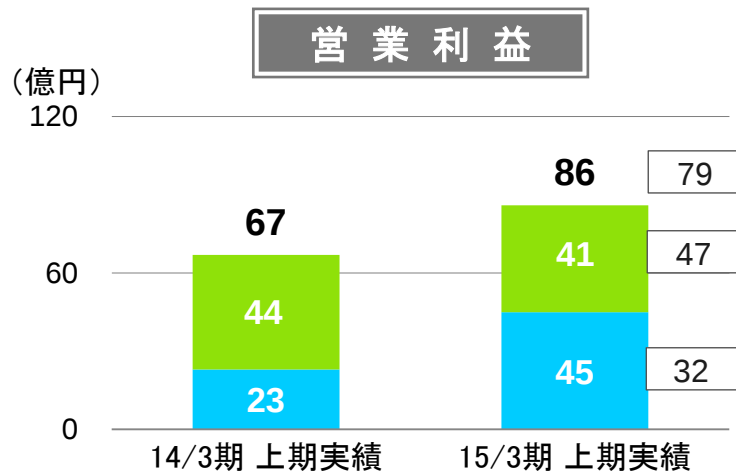
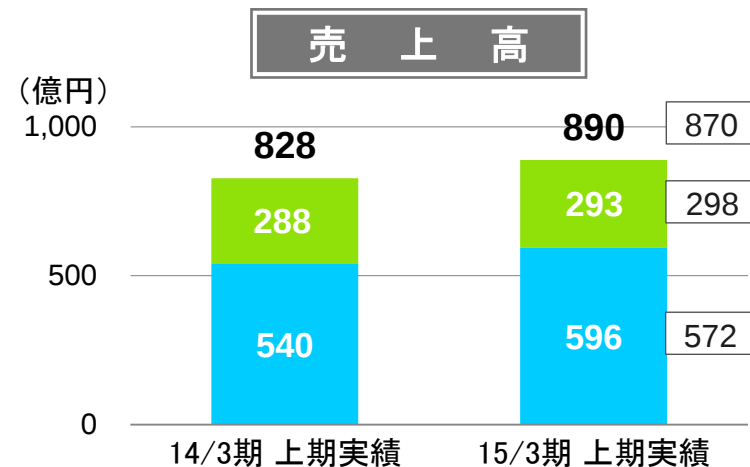
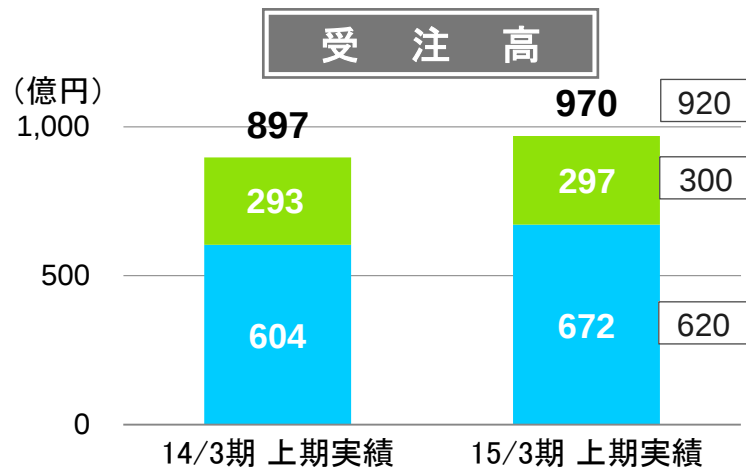
1. 業績ハイライト

(億円)

	2014/3期 上期実績	2015/3期 上期期初計画	2015/3期 上期実績	前年同期比
受 注 高	897	920	970	+ 8.1%
売 上 高	828	870	890	+ 7.5%
営 業 利 益	67	79	86	+ 28.9%
経 常 利 益	72	83	92	+ 28.4%
四 半 期 純 利 益	41	53	59	+ 43.4%

2. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率

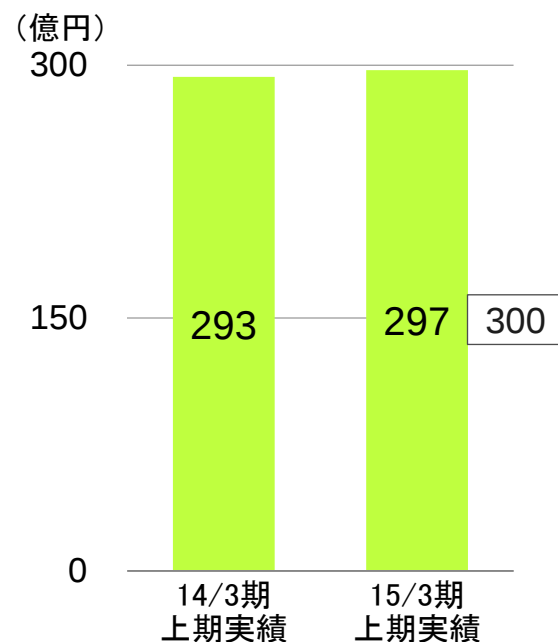
 水処理薬品事業
  水処理装置事業
  全社
 *  内は期初計画



3. 水処理薬品事業

受 注 高

* □ 内は期初計画

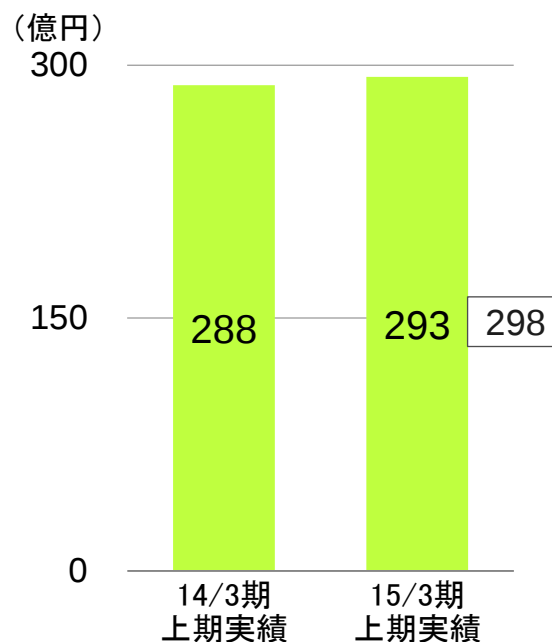


【主な増減分野】

- 国内: 主力商品の減少 (-)
- 海外: 中国・東南アジアが伸長 (+)

売 上 高

* □ 内は期初計画



【主な増減分野】

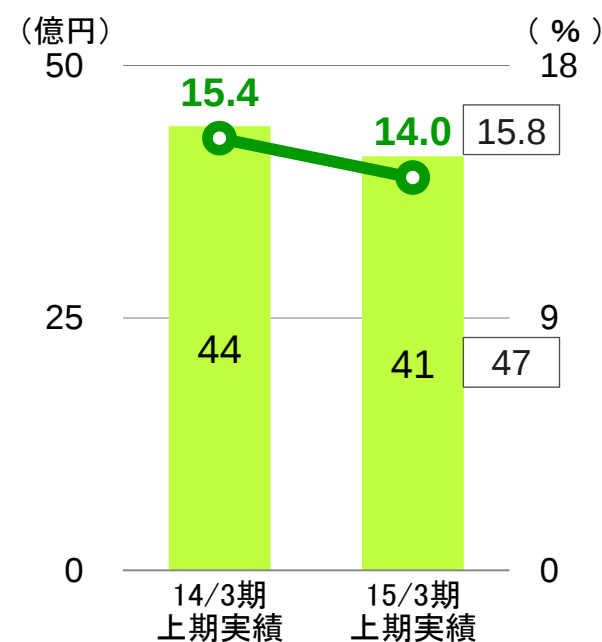
- 国内: 主力商品の減少 (-)
- 海外: 中国・東南アジアが伸長 (+)

営業利益・営業利益率

営業利益

営業利益率

* □ 内は期初計画



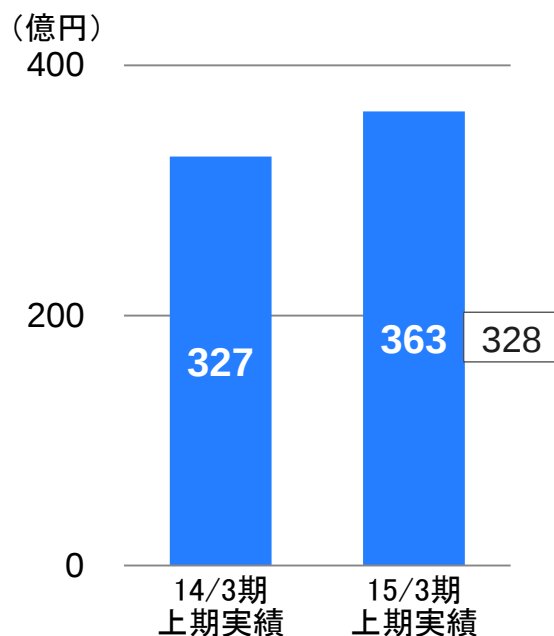
【主な増減要因】

- 原価率の悪化 (-)
- 販管費の増加 (-)

4. 水処理装置事業（電子産業向け）

受 注 高

* □ 内は期初計画

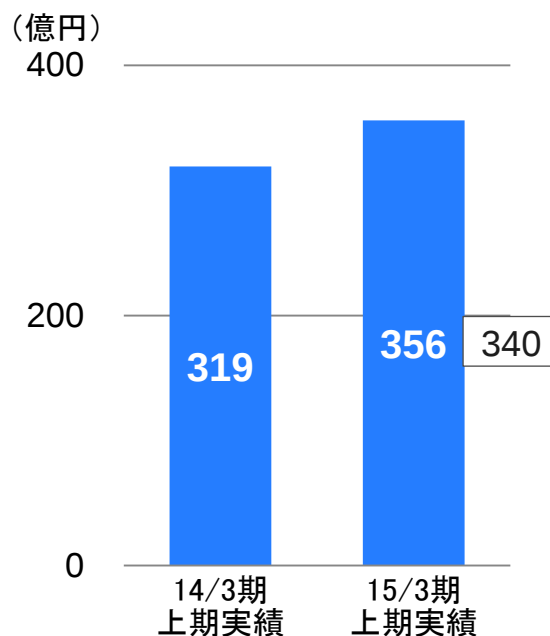


【主な増減分野】

- ハードの増加 (+)
- メンテナンスの増加 (+)

売 上 高

* □ 内は期初計画



【主な増減分野】

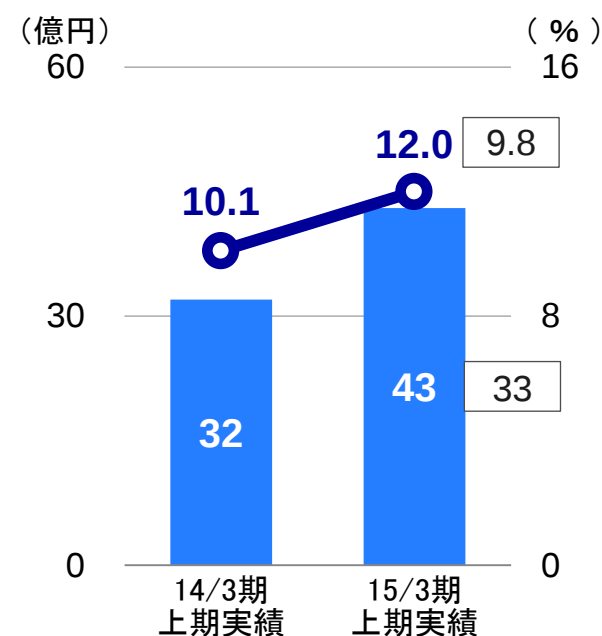
- ハードの増加 (+)
- メンテナンスの増加 (+)

営業利益・営業利益率

営業利益

営業利益率

* □ 内は期初計画



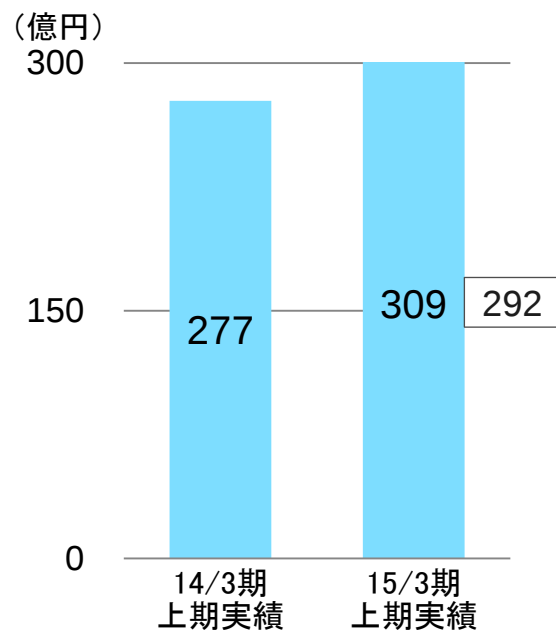
【主な増減要因】

- 増収効果 (+)
- 販管費の減少 (+)

5. 水処理装置事業（一般産業向け）

受 注 高

* □ 内は期初計画

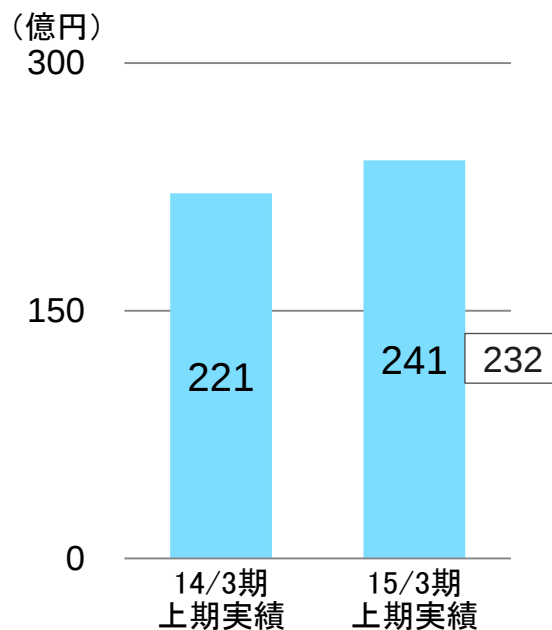


【主な増減分野】

- 電力向けハードの増加 (+)
- メンテナンスの増加 (+)

売 上 高

* □ 内は期初計画

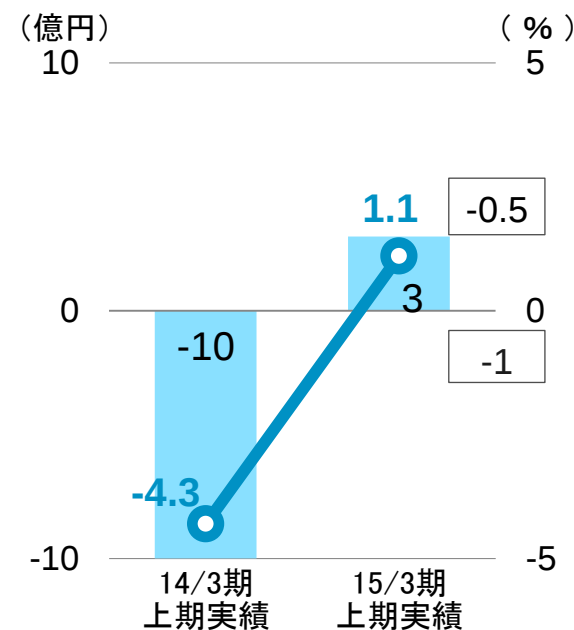


【主な増減分野】

- 電力向けハードの増加 (+)
- 一般向けハードの増加 (+)
- メンテナンスの増加 (+)

営業利益・営業利益率

営業利益 営業利益率
* □ 内は期初計画



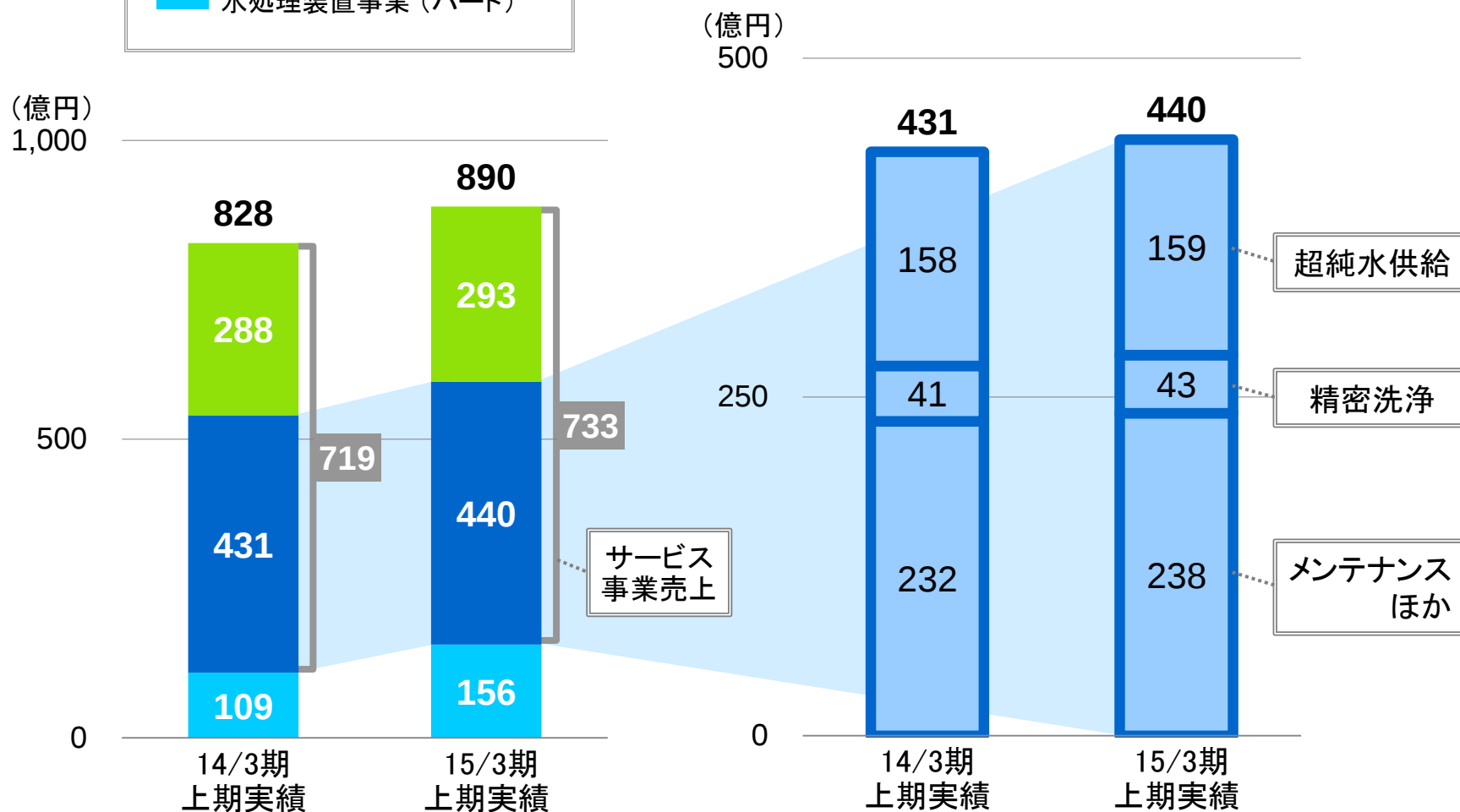
【主な増減要因】

- 原価率の改善 (+)
- 増収効果 (+)

6. サービス事業売上高内訳

- 水処理薬品事業
- 水処理装置事業（サービス）
- 水処理装置事業（ハード）

装置事業中のサービス事業売上高内訳



7. 海外事業（地域別・事業別売上高）

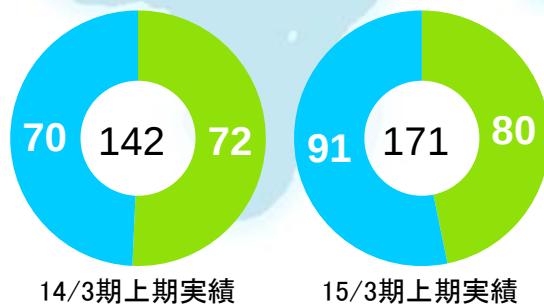
（単位：億円）

欧州

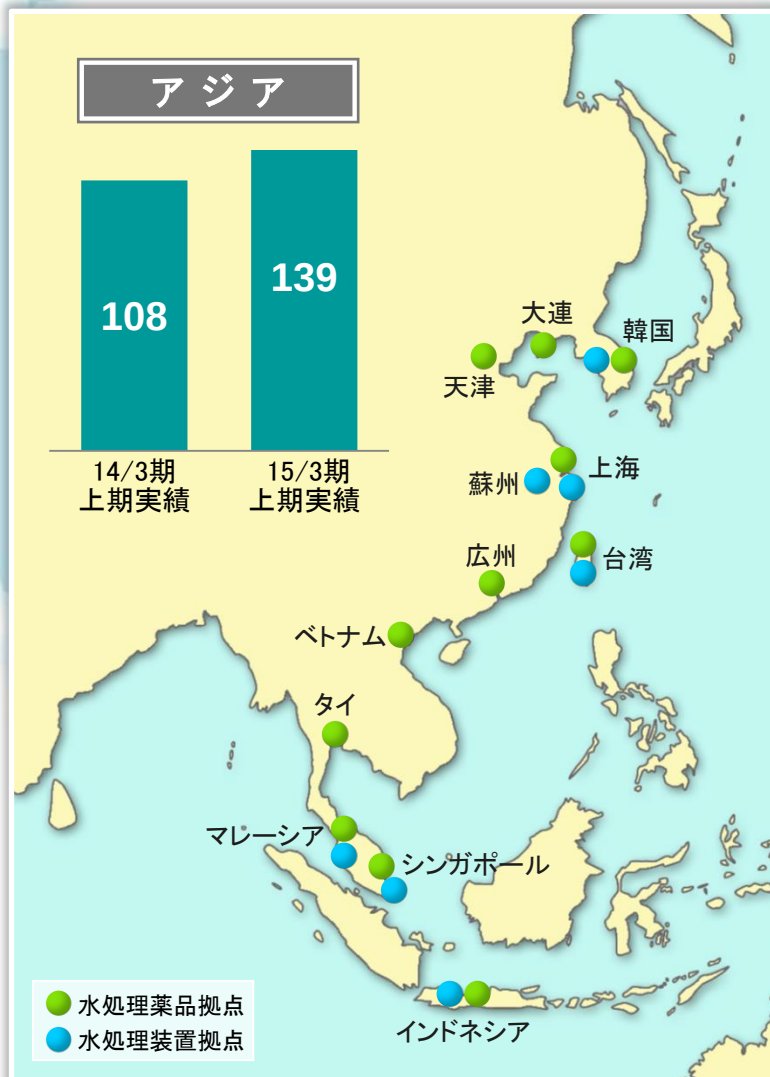
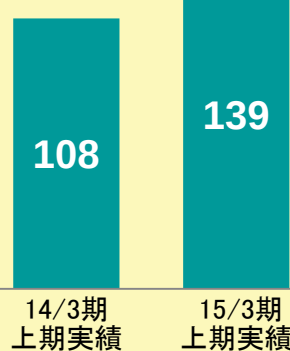


欧州

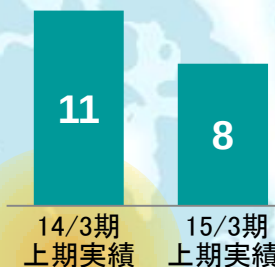
事業別


■ 水処理薬品事業
 ■ 水処理装置事業

アジア

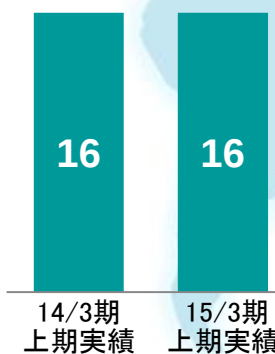


北米



北米

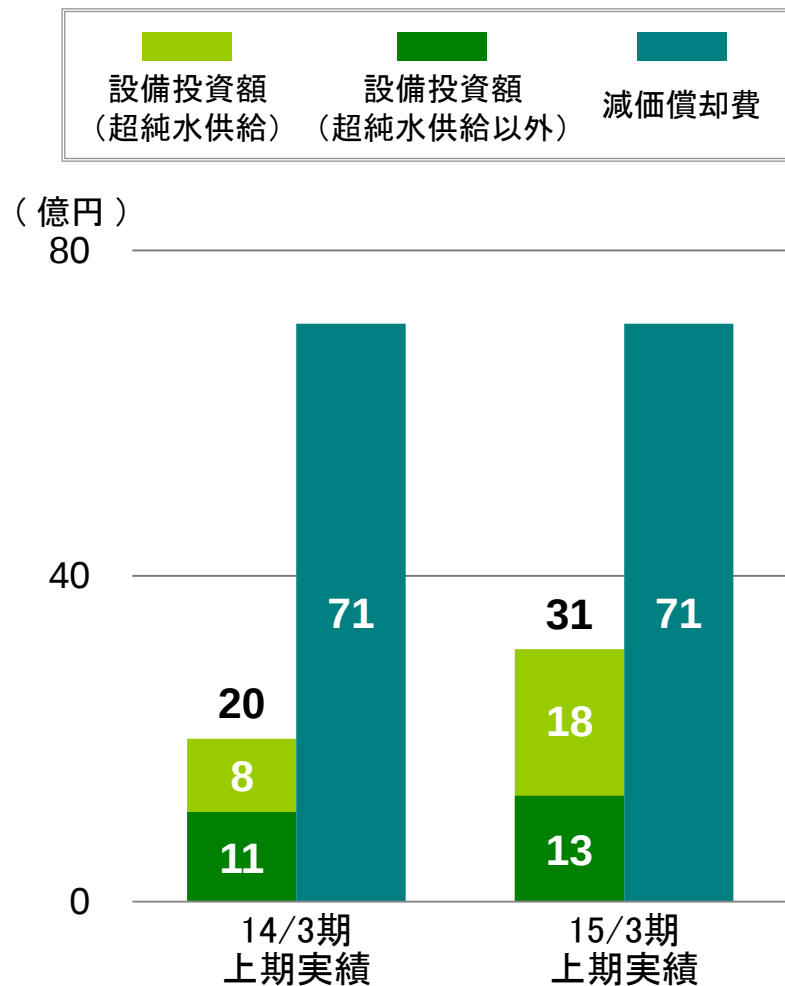
その他



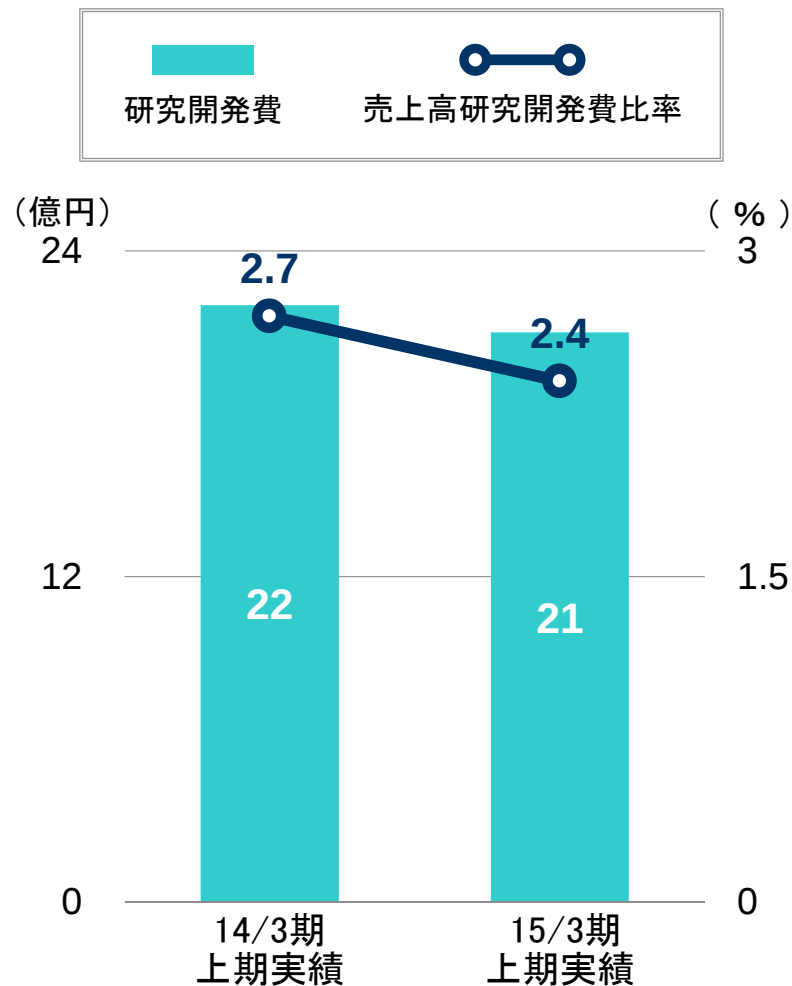
ブラジル

8. 設備投資・減価償却費・研究開発費

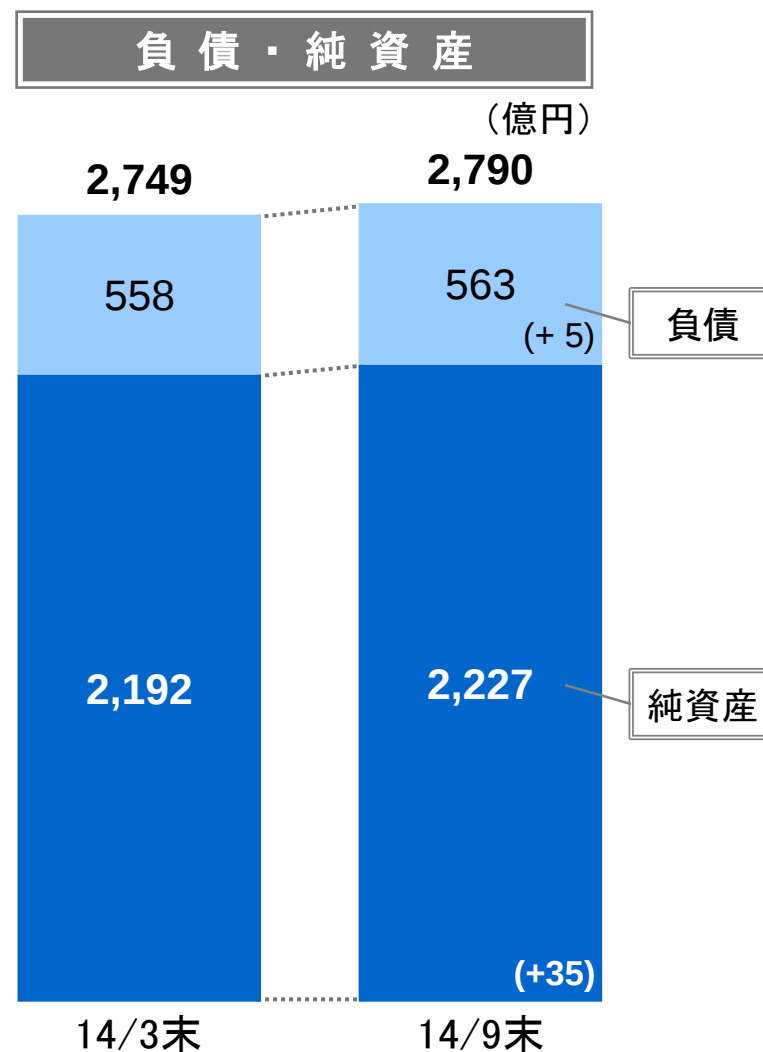
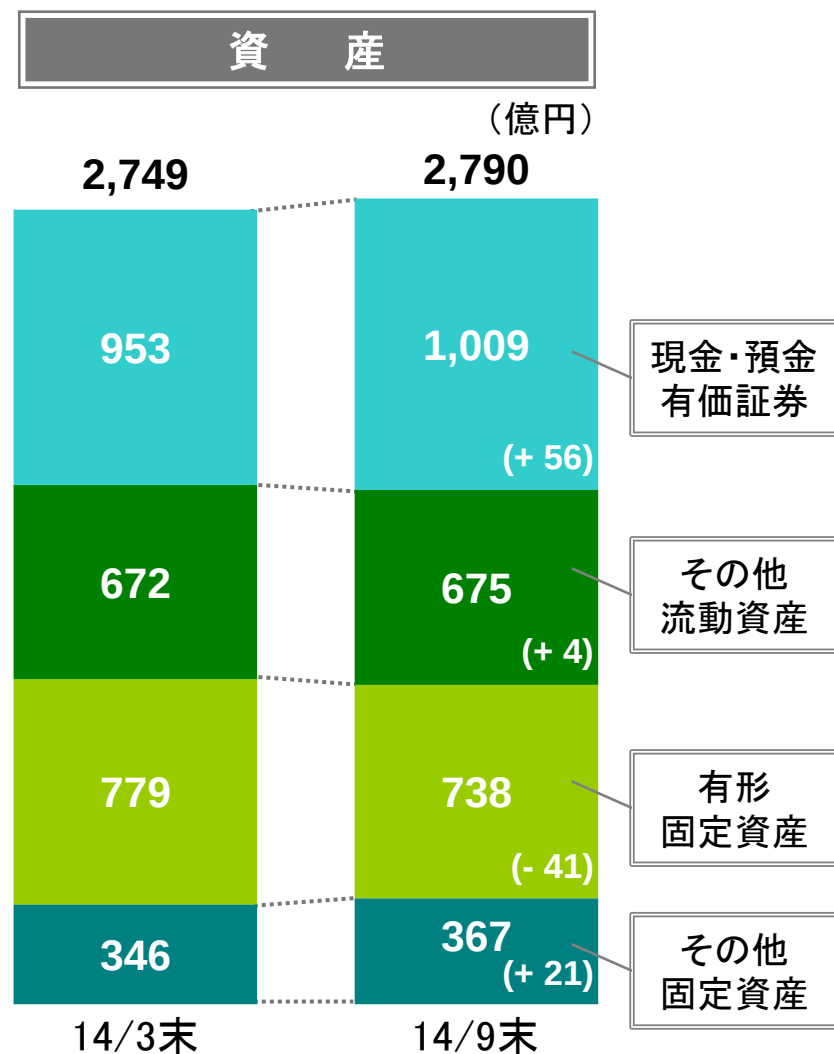
設備投資・減価償却費



研究開発費



9. 財政状態



2015年3月期通期計画

1. 総括
2. 前提条件
3. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率
4. 水処理薬品事業
5. 水処理装置事業（電子産業向け）
6. 水処理装置事業（一般産業向け）
7. サービス事業売上高内訳
8. 海外事業（地域別・事業別売上高）
9. 超純水供給事業
10. 設備投資・減価償却費・研究開発費
11. 株主還元

1. 総括

(億円)

	2014/3期 実績	2015/3期 計画	前期比
受 注 高	1,735	1,890	+ 9.0%
売 上 高	1,781	1,850	+ 3.9%
営 業 利 益	149	170	+ 14.2%
経 常 利 益	161	178	+ 10.8%
当 期 純 利 益	94	110	+ 17.6%

2. 前提条件



水処理薬品事業

- 国内の顧客操業度の急激な回復は見込みづらい
- 新興国では経済成長・人口増加に伴い、工場建設や国内企業の海外生産拡大が継続



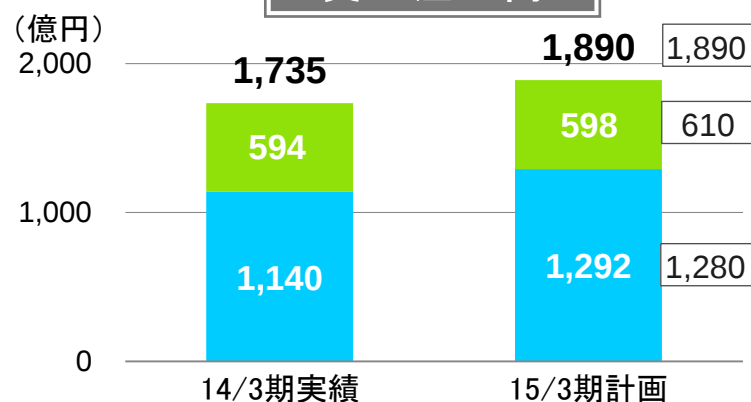
水処理装置事業

- 国内設備投資は工場新設や増強投資の需要は弱いものの、老朽化設備の更新需要を見込む
- 東アジアの半導体・液晶の設備投資は製品や顧客によりばらつきがある

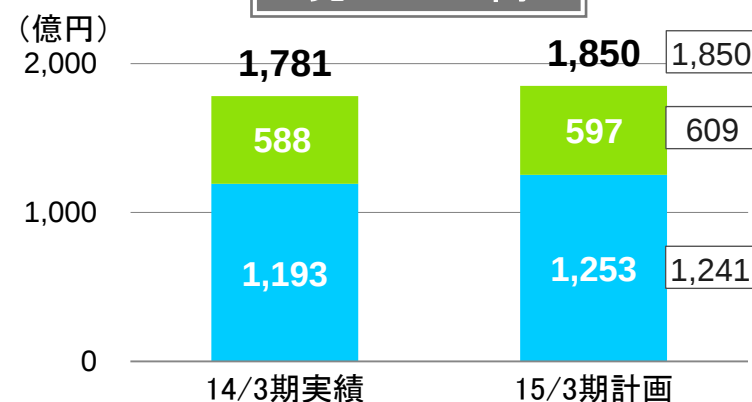
3. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率

 水処理薬品事業
  水処理装置事業
  全社
 *  内は期初計画

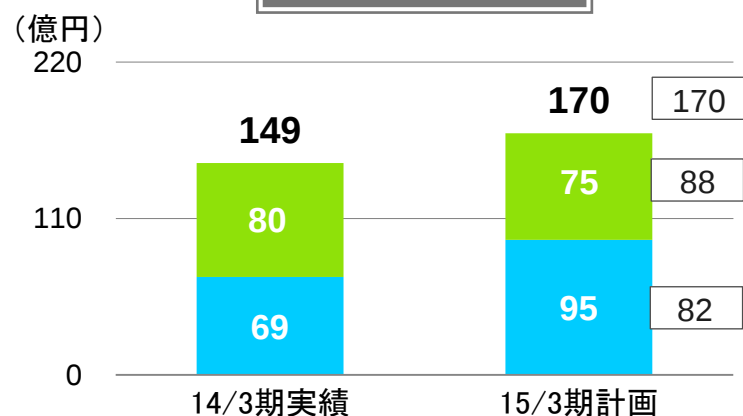
受 注 高



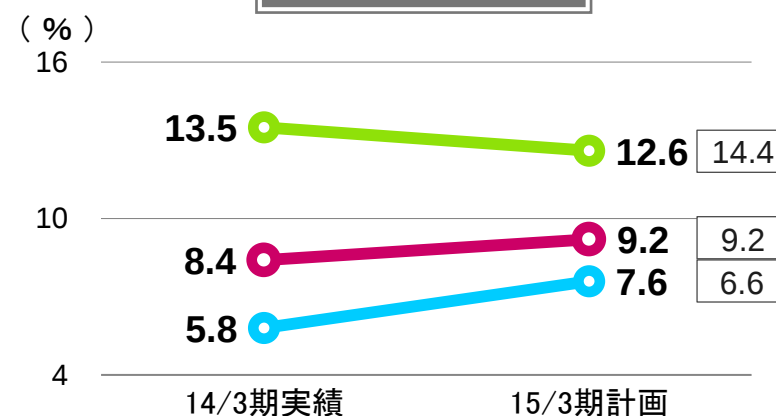
売 上 高



営 業 利 益



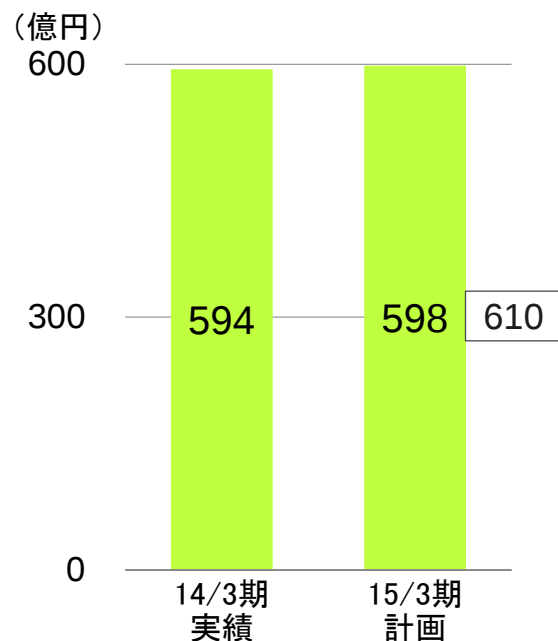
営 業 利 益 率



4. 水処理薬品事業

受 注 高

* □ 内は期初計画

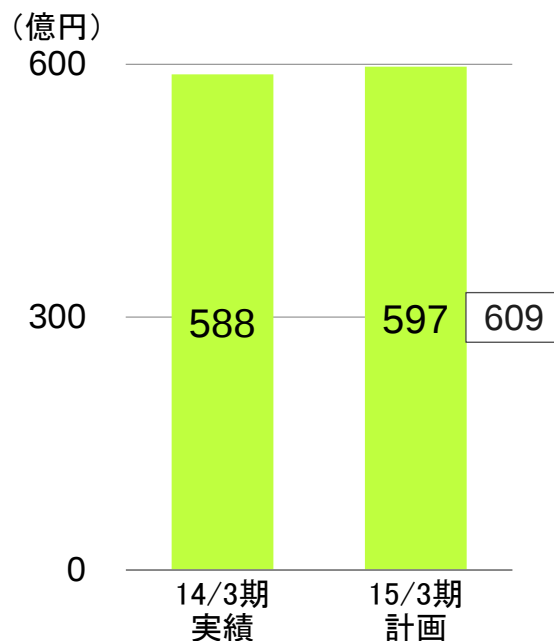


【主な増減分野】

- 国内:顧客操業度の回復の遅れ (-)
- 海外:アジアを中心に成長持続 (+)

売 上 高

* □ 内は期初計画



【主な増減分野】

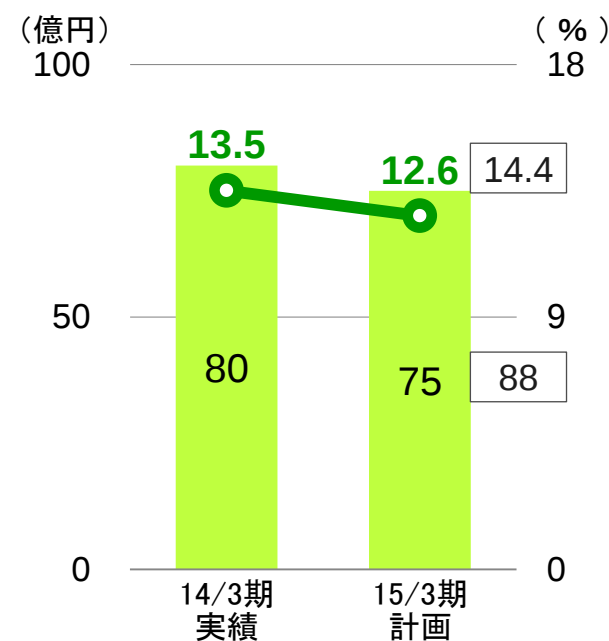
- 国内:顧客操業度の回復の遅れ (-)
- 海外:アジアを中心に成長持続 (+)

営業利益・営業利益率

営業利益

営業利益率

* □ 内は期初計画



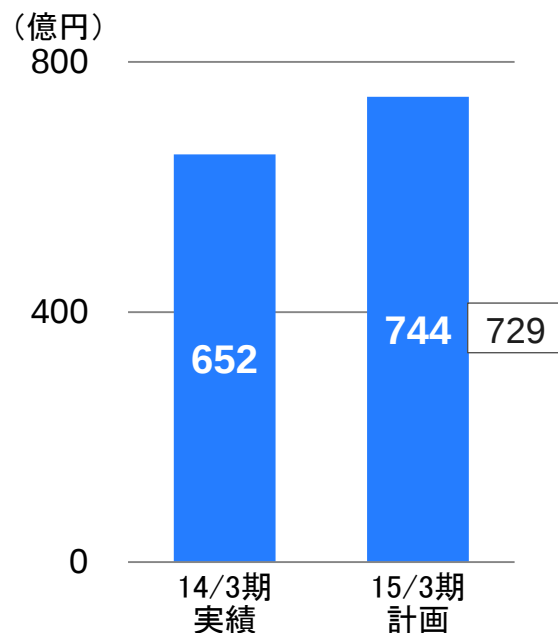
【主な増減要因】

- 原価率の悪化 (-)
- 販管費の増加 (-)
- 増収効果 (+)

5. 水処理装置事業（電子産業向け）

受 注 高

* □ 内は期初計画

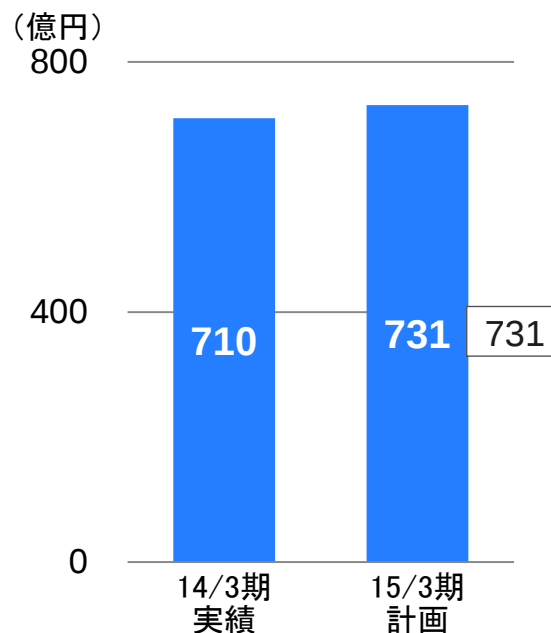


【主な増減分野】

- 海外ハードの増加 (+)
- メンテナンスの増加 (+)

売 上 高

* □ 内は期初計画

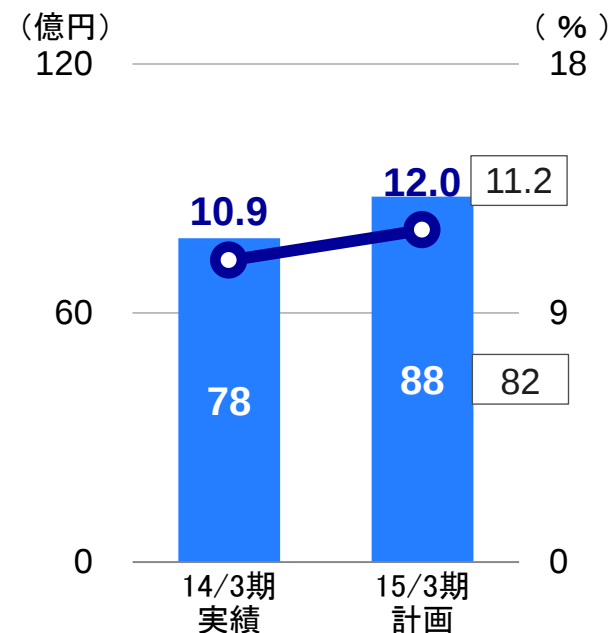


【主な増減分野】

- 海外ハードの増加 (+)
- メンテナンスの増加 (+)

営業利益・営業利益率

営業利益 営業利益率
* □ 内は期初計画



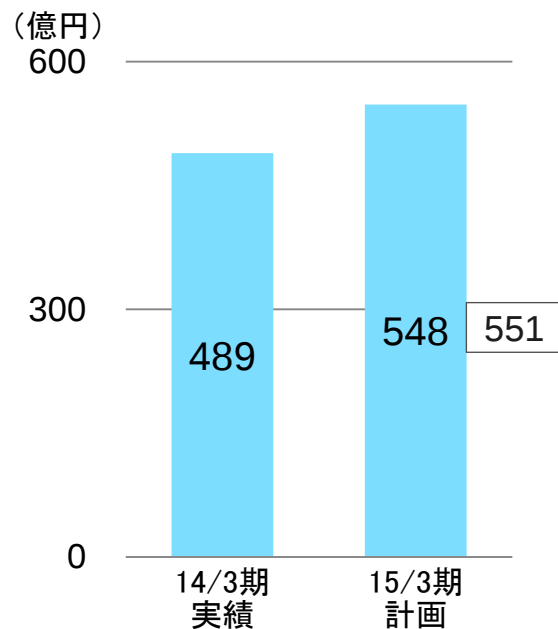
【主な増減要因】

- 増収効果 (+)
- 原価率の改善 (+)
- 販管費の減少 (+)

6. 水処理装置事業（一般産業向け）

受 注 高

* □ 内は期初計画

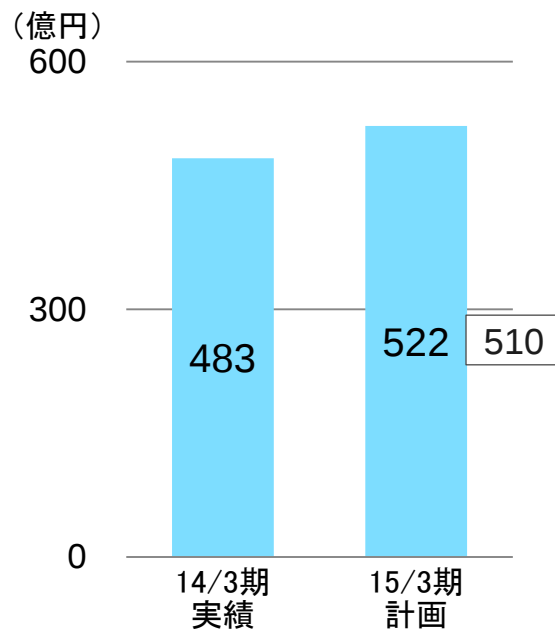


【主な増減分野】

- 電力向けハードの増加 (+)
- 一般向けハードの増加 (+)

売 上 高

* □ 内は期初計画



【主な増減分野】

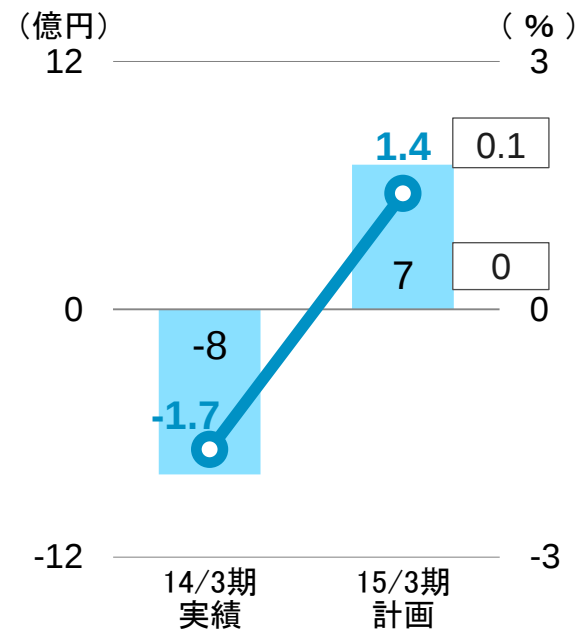
- 電力向けハードの増加 (+)
- 一般向けハードの増加 (+)

営業利益・営業利益率

営業利益

営業利益率

* □ 内は期初計画

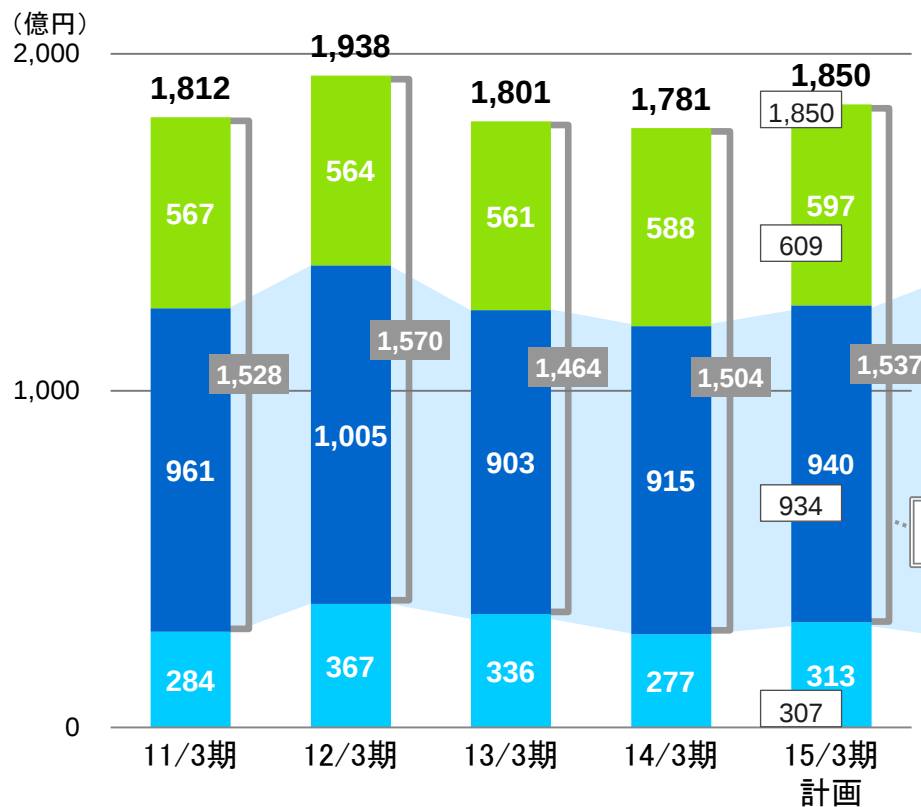


【主な増減要因】

- 増収効果 (+)
- 原価率の改善 (+)

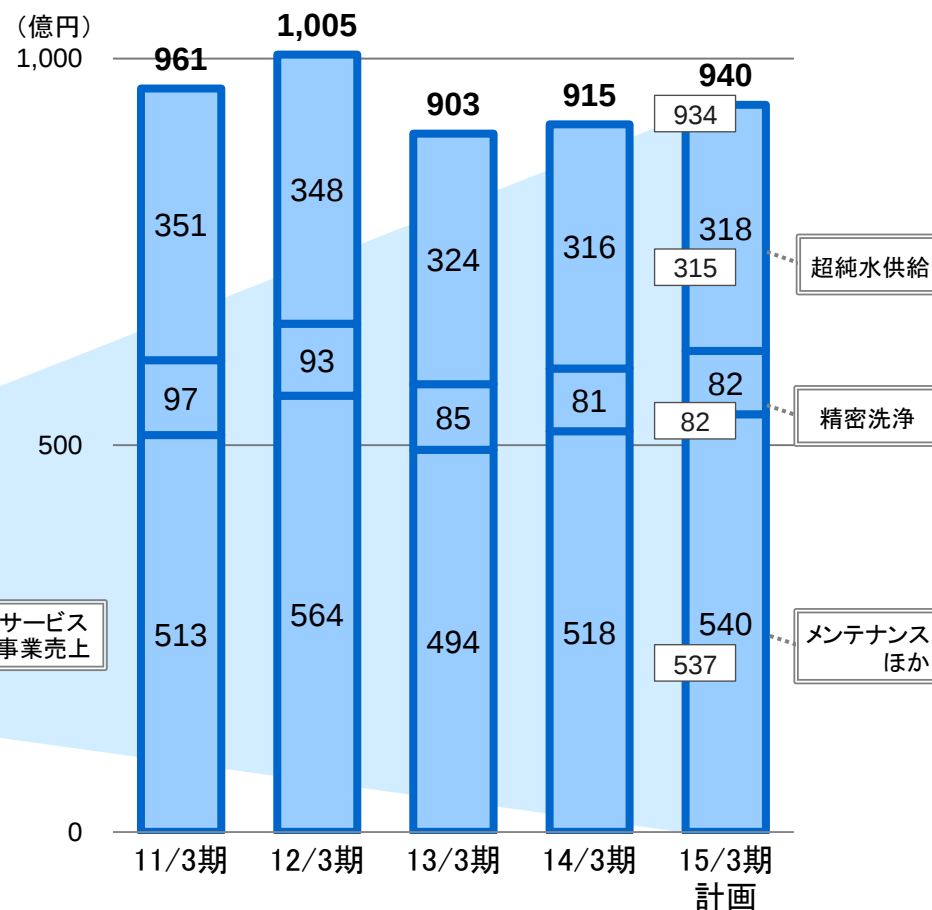
7. サービス事業売上高内訳

- 水処理薬品事業
- 水処理装置事業(サービス)
- 水処理装置事業(ハード)
- * □ 内は期初計画



装置事業中のサービス事業売上高内訳

* □ 内は期初計画

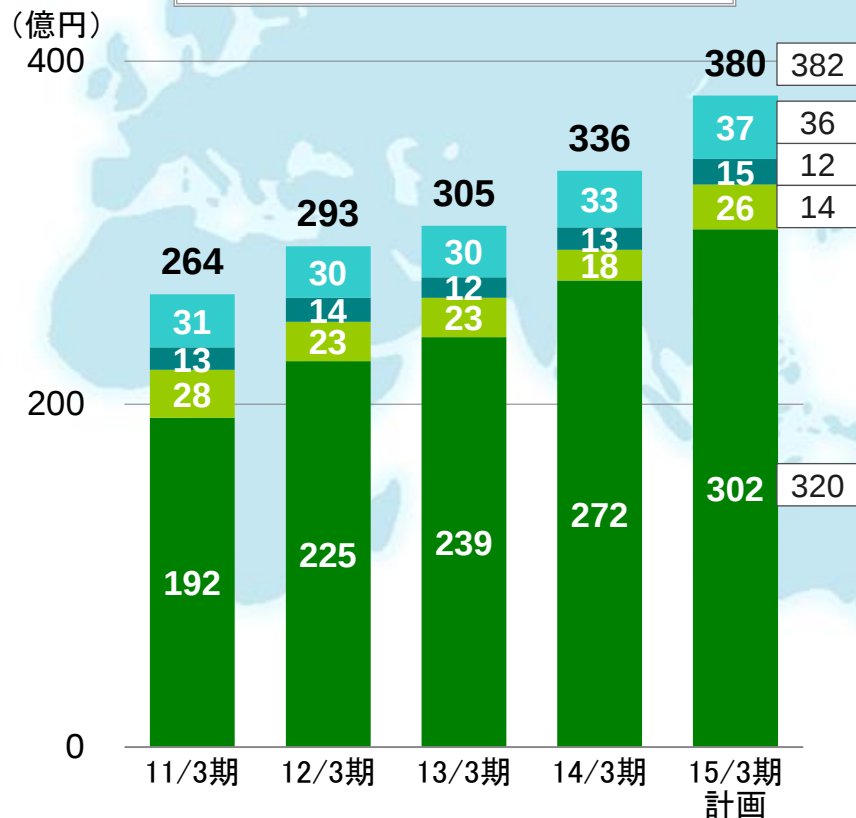


8. 海外事業（地域別・事業別売上高）

海外地域別売上高

アジア 北米 欧州 その他

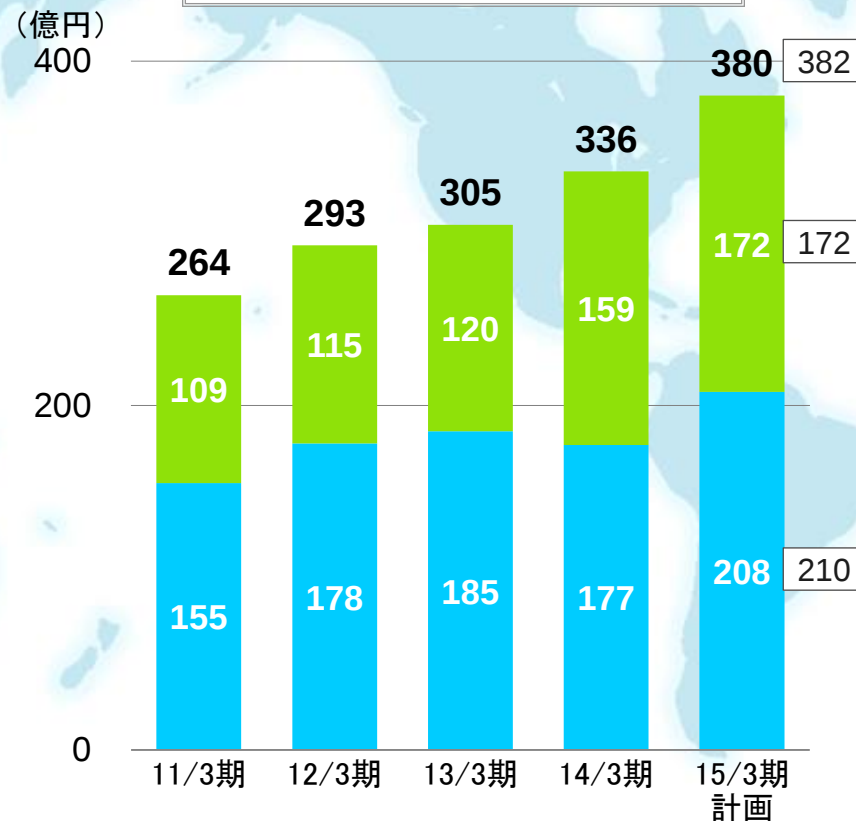
* □内は期初計画



海外事業別売上高

水処理薬品事業 水処理装置事業

* □内は期初計画

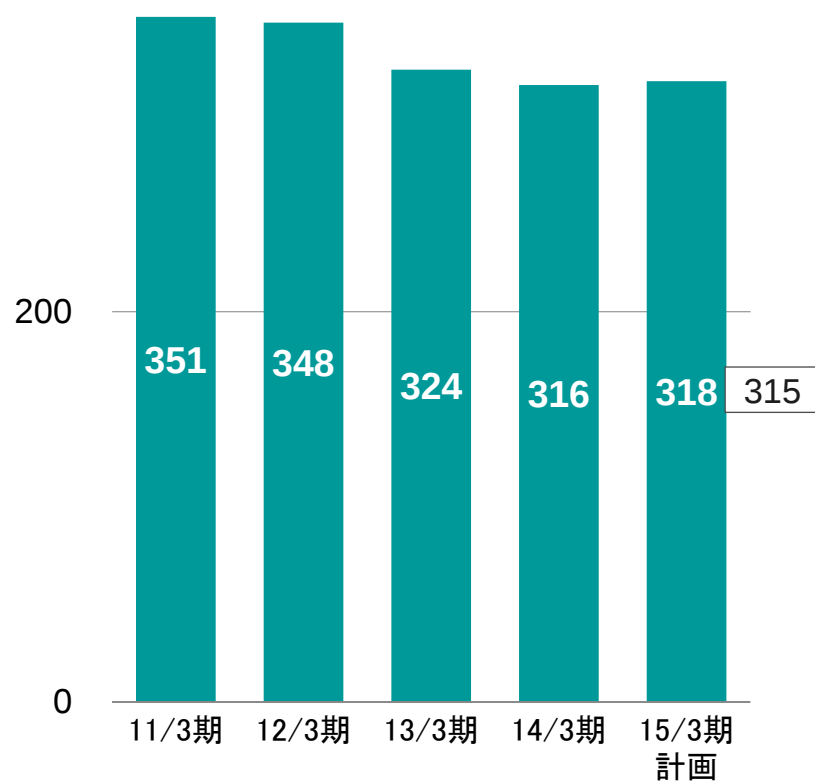


9. 超純水供給事業

売上高

* □ 内は期初計画

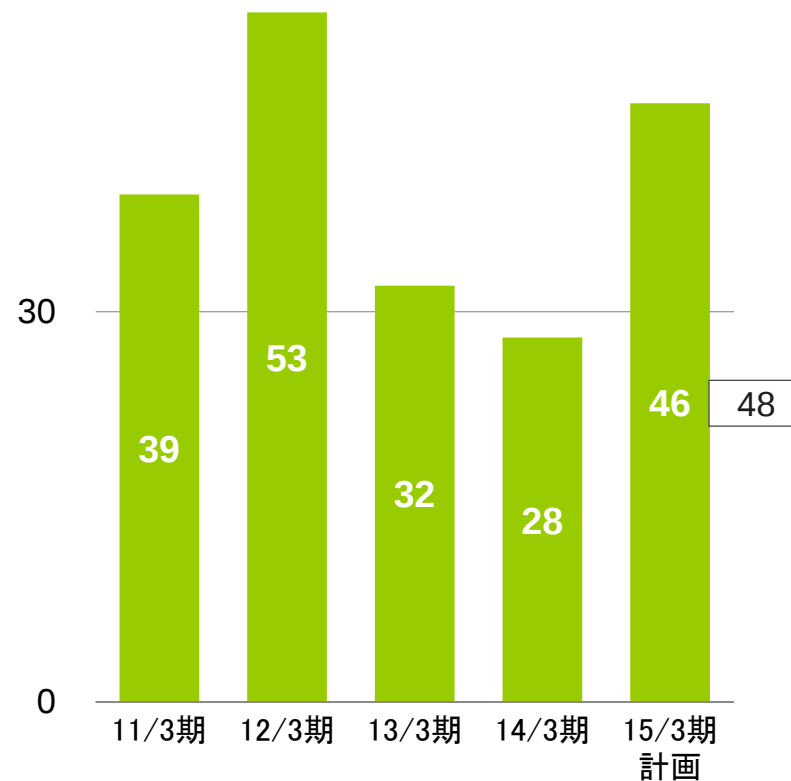
(億円)
400



設備投資額

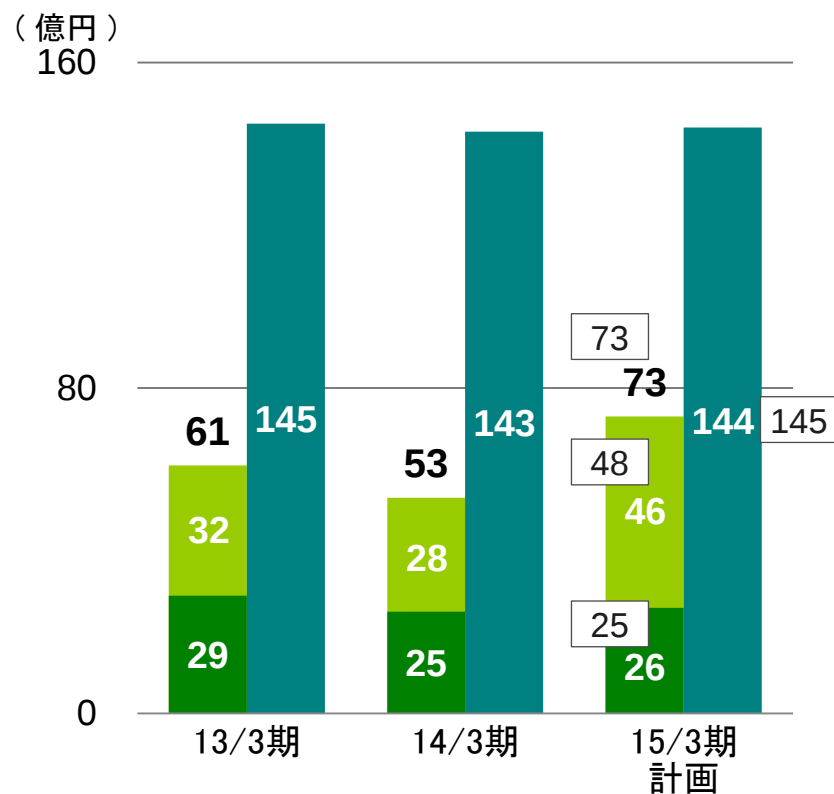
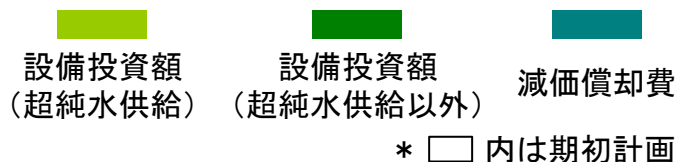
* □ 内は期初計画

(億円)
60

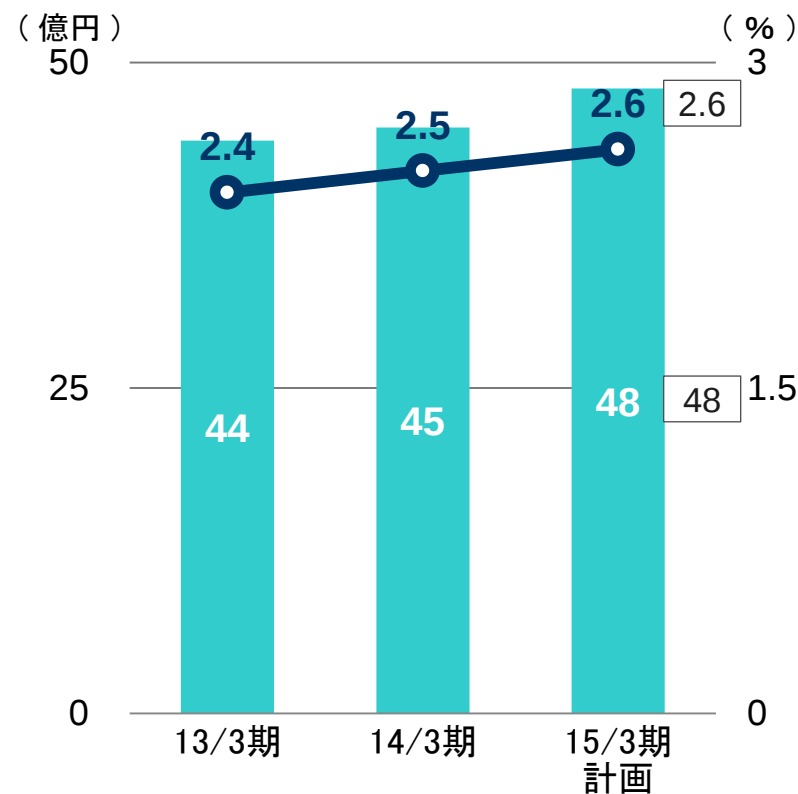


10. 設備投資・減価償却費・研究開発費

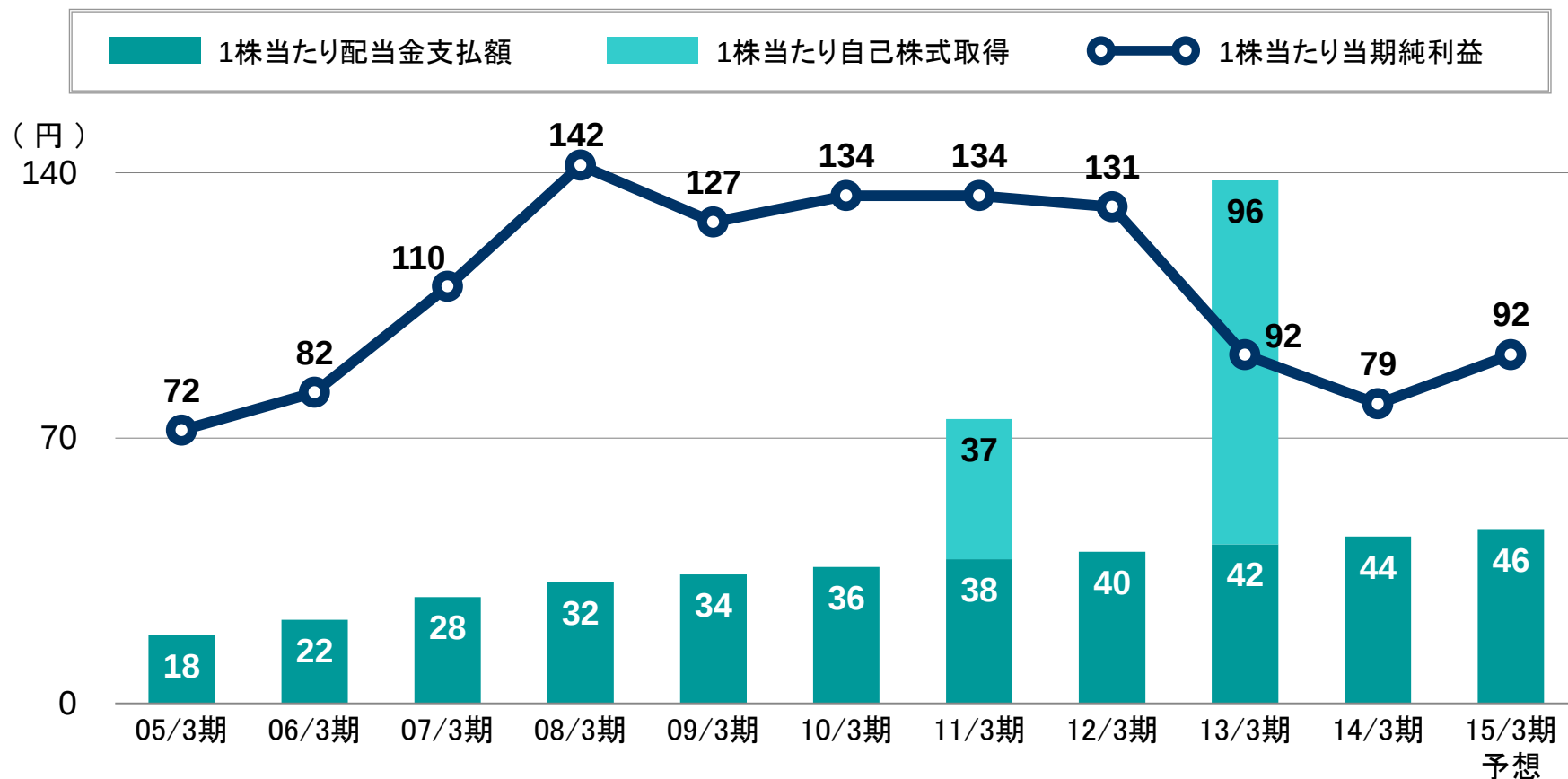
設備投資・減価償却費



研究開発費



11. 株主還元



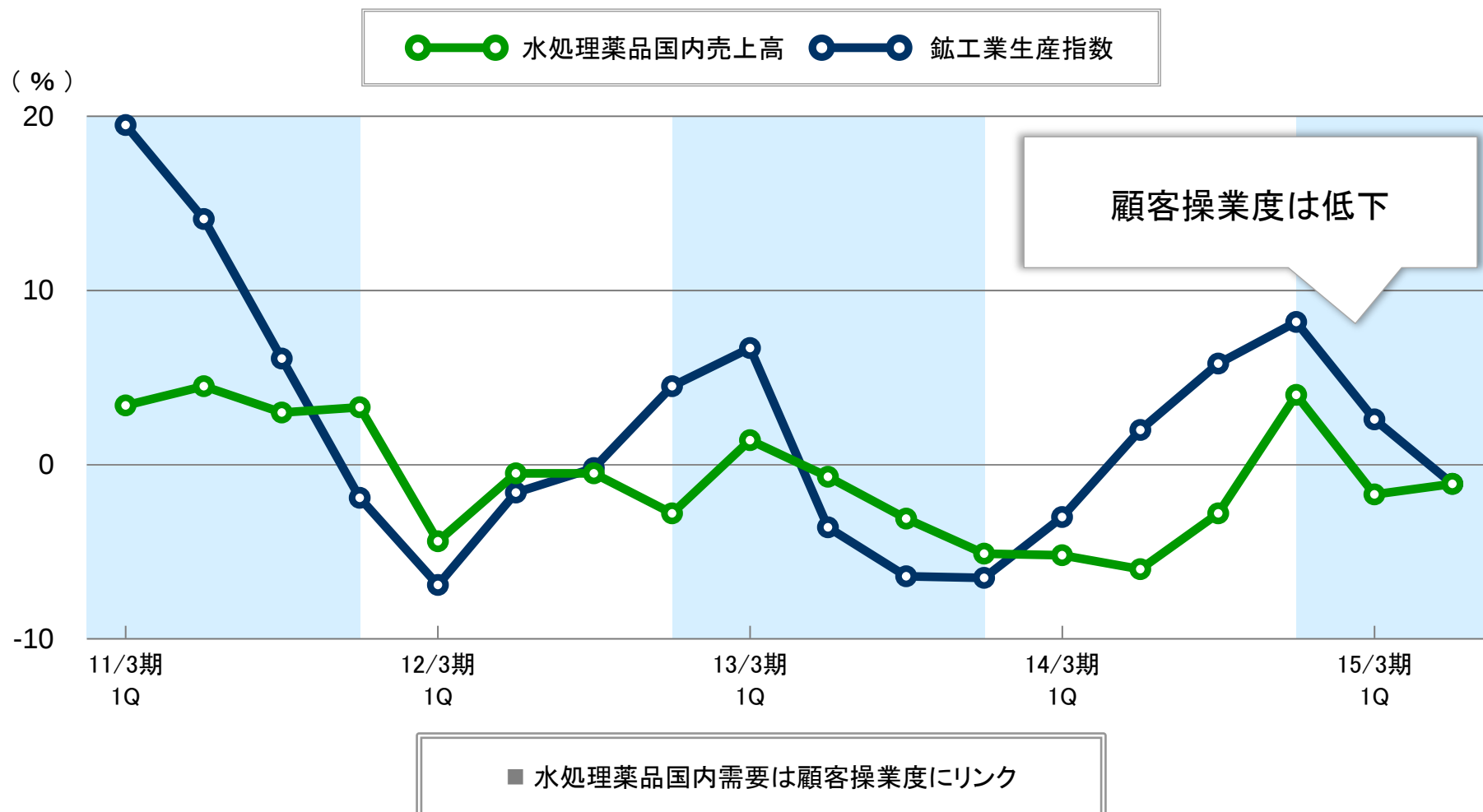
安定配当の継続を基本方針とし、業績の推移および事業への投資を勘案のうえ、配当の増額に努めていきます。
自己株式の取得についても、柔軟かつ機動的に実施を判断していきます。

事業環境と今後の見通し

1. 水処理薬品事業（国内）
2. 水処理薬品事業（海外）
3. 水処理装置事業（収益性）
4. 水処理装置事業（超純水供給事業）
5. 新商品・新サービス ①
6. 新商品・新サービス ②

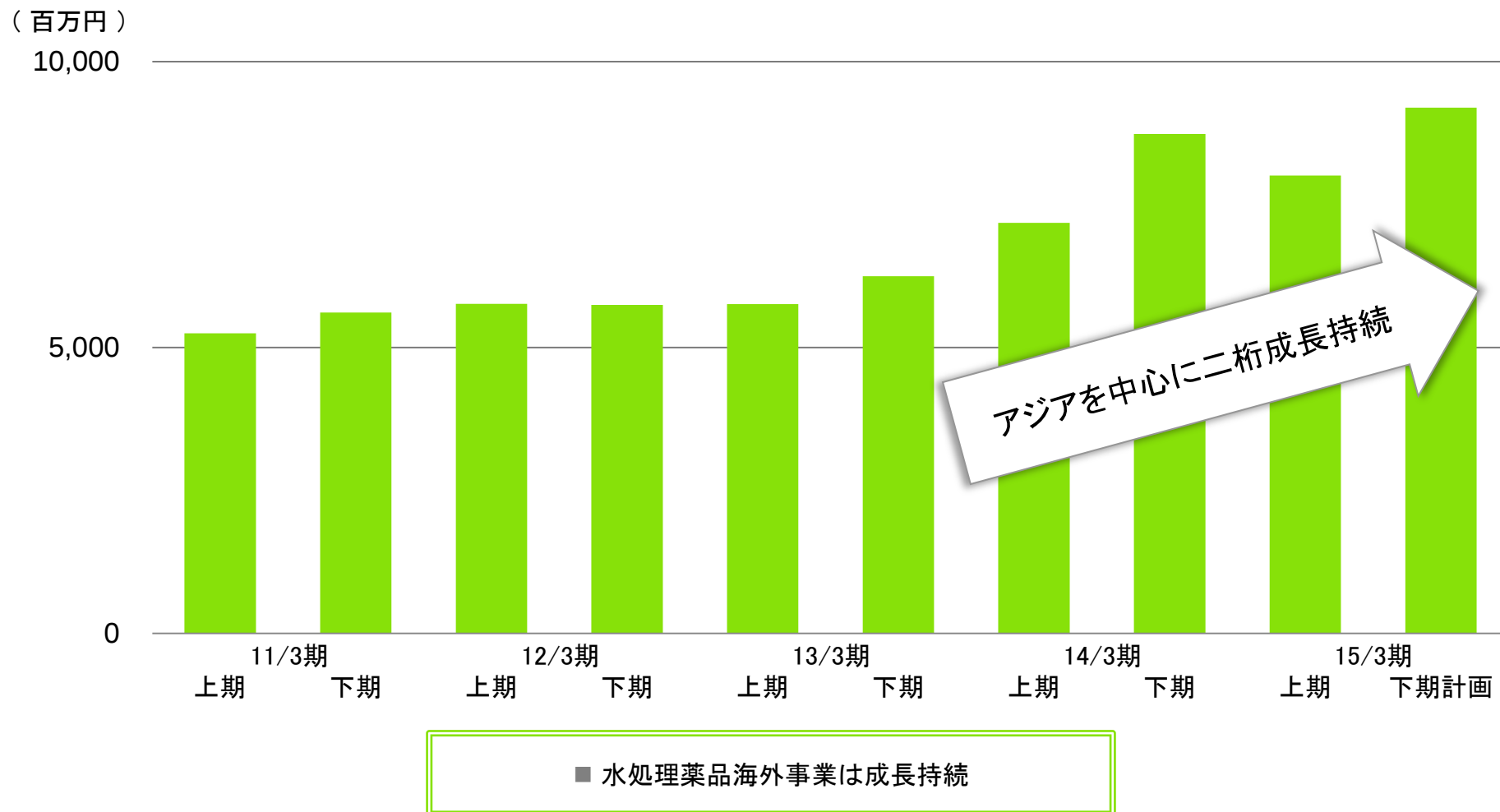
1. 水処理薬品事業（国内）

水処理薬品国内売上高と鋳工業生産指数（前年同期比）



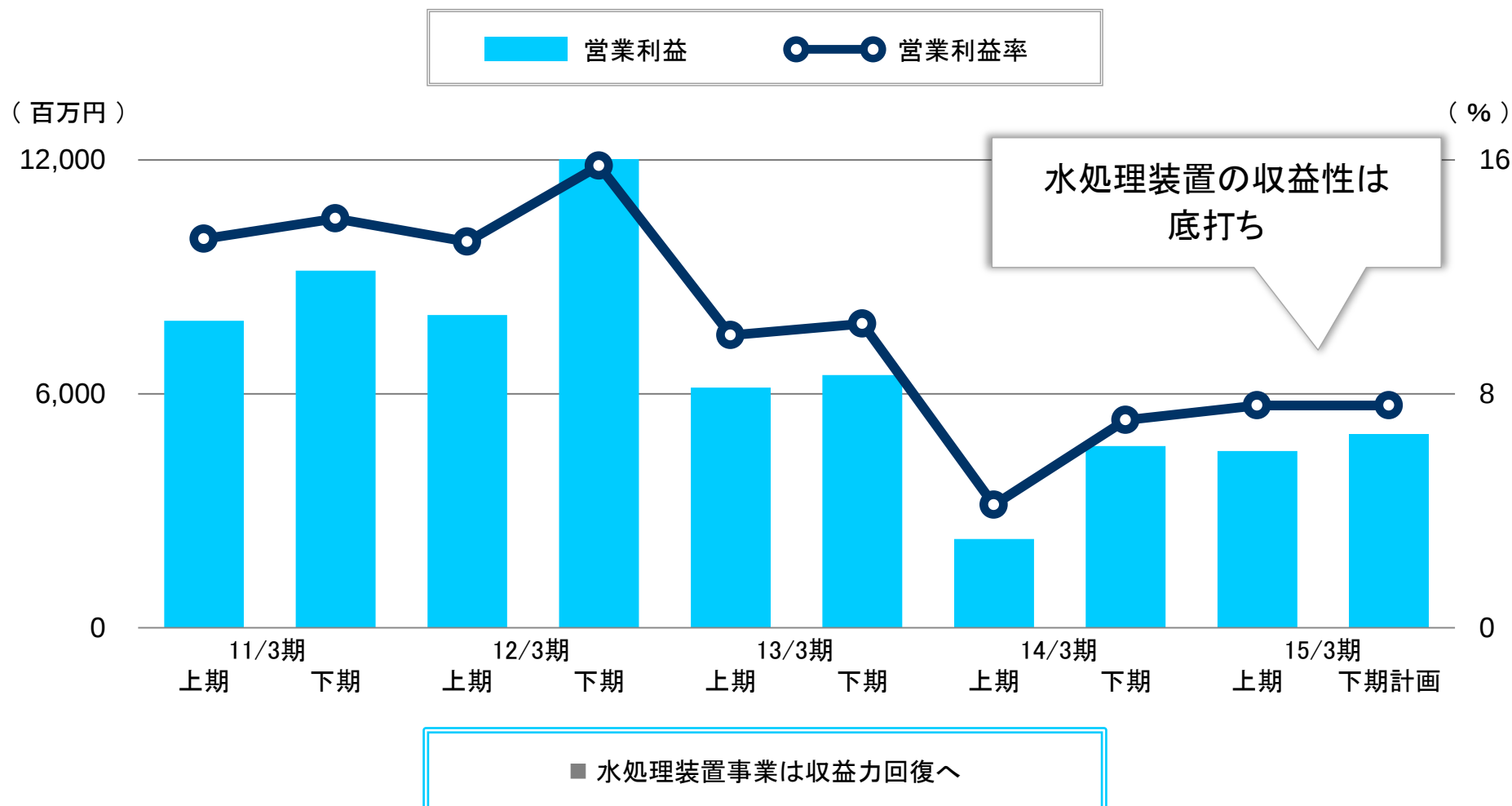
2. 水処理薬品事業（海外）

水処理薬品 海外売上高



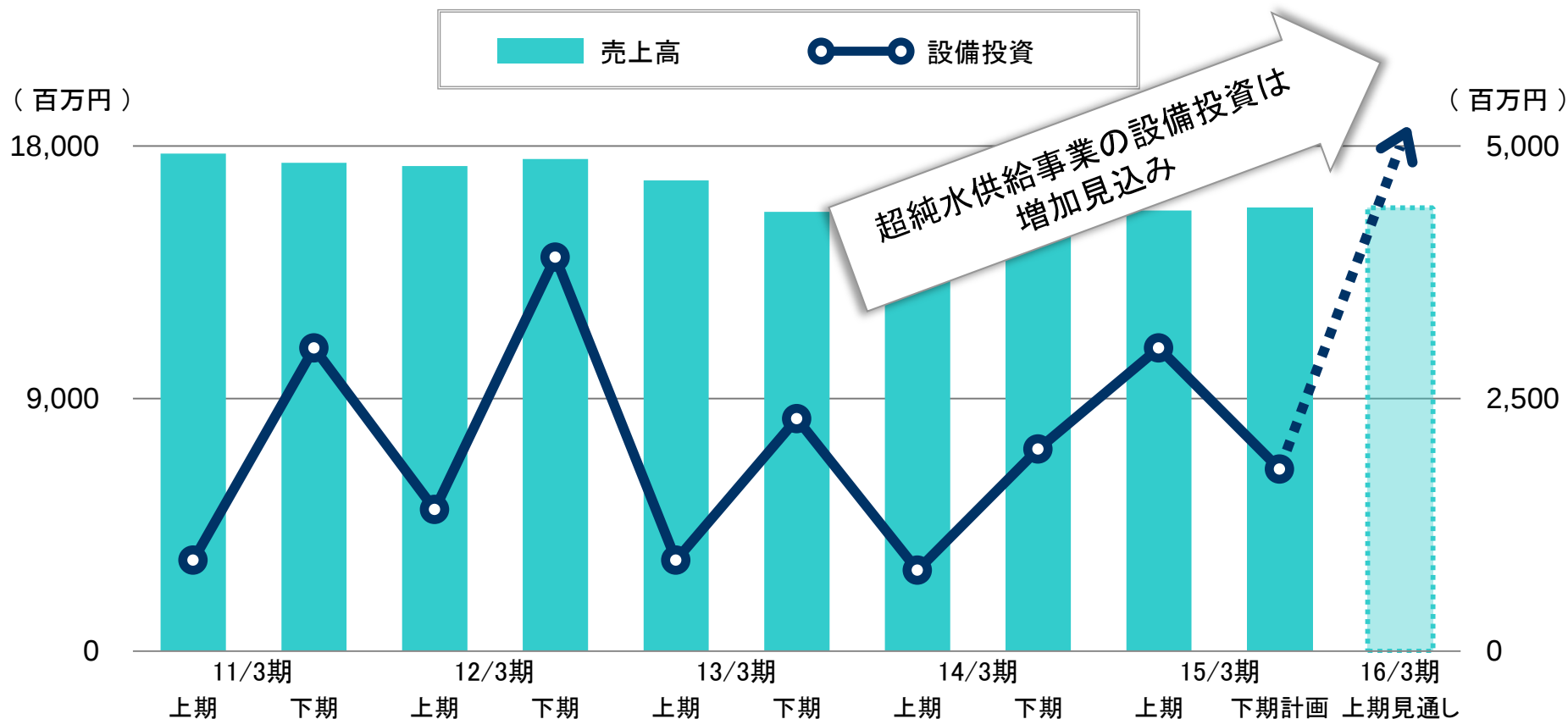
3. 水処理装置事業（収益性）

水処理装置事業 営業利益



4. 水処理装置事業（超純水供給事業）

超純水供給事業（売上高・設備投資）



■ 超純水供給事業は安定収益源であり続ける

5. 新商品・新サービス①

K-ecoメンテナンスサービス

- お客様に納入した水処理装置に水質センサーを設置
- リアルタイムで収集したオンラインデータと、定期水質分析結果を解析
- 運転状況が見える化することで、お客様と情報を共有し、適正なメンテナンスを提案

主契約
年間メンテナンス契約



運転状況見える化特約

省コスト化支援特約

⇒ ユーティリティ設備を含めた工場全体の運転状況の最適化に貢献

6. 新商品・新サービス②

リチウムイオン電池分野に参入 ～イプシガードKC

- 水処理分野で培ってきた包接技術* を応用し、リチウムイオン電池の安全性を向上させる新素材を開発
- 包接技術により、電池内の圧力と温度の上昇を抑制
- 電池製造における炭酸ガスを引き抜く工程が不要となり、製造時間短縮とコストダウンに寄与
- モバイル用の小型電池から電気自動車用の大型電池まで幅広い用途に適応
- 国内外のリチウムイオン電池メーカーに供給予定(アジア大手電池メーカーから受注済)



* 包接技術

分子の集合体、または空孔を持つ分子(ホスト)の中に、他の分子(ゲスト)が一定の組成比で組み込まれ、特定の結晶構造を形成している直接化合物をつくる技術。

ホスト分子の組み合わせによって、危険物の安定化や物質の効力を持続させる効果を持つ。

ドイツBK Giulini社の事業の買収について

1. 買収の概要
2. BKG社及び買収対象事業の概要
3. 本件の戦略的意義

1. 買収の概要

取引概要

- 当社によるドイツBK Giulini社（以下「BKG社」といいます。）の水処理薬品・紙プロセス薬品・アルミナ化合物事業（以下「買収対象事業」といいます。）の買収（以下「本件」といいます。）

買収ストラクチャー概要

- 当社の100%子会社であるドイツの買収目的会社を買収対象事業の資産・負債及び関連企業の株式を譲り受け

買収総額

- 250百万ユーロ（約342億円*¹）
なお、クロージング時点で承継する運転資本等により最終的な支払価格を調整

クロージング予定

- 競争法上の認可等のクロージング条件が充足されることを条件に2014年12月末を予定

買収資金の調達方法

- 手元現預金

注:

*1ユーロ／円の為替レートは1ユーロ136.65円で換算

2. BKG社及び買収対象事業の概要

BKG社の概要

- 本社:ドイツ(ルートヴィヒスハーフェン)
- 設立年:1823年
- 株主:Israel Chemicals Limited社(間接的に100%保有)
- 事業内容:水処理薬品・紙プロセス薬品・アルミナ化合物・医薬品中間体・コスメ関連中間体及び石膏関連製品の製造・販売及び研究開発

買収対象事業の強み

- 平均経験年数10年以上の経験豊富なセールsteam
- 欧州の優良企業との長期的なリレーションシップ
- お客様に最適なソリューションを提供し得る高い商品開発能力
- 業界経験豊富な強力なマネジメントチーム

買収対象事業の概要

事業概要

水処理薬品

水処理薬品、水処理機器の製造・販売及び付帯する技術サービス。
主な製品は、スケール腐食防止剤、分散剤、殺生物剤、洗浄剤、消泡剤、凝固剤、凝集剤等

紙プロセス薬品

紙の製造過程における機能性薬品(サイジングや湿潤紙力増強剤)の製造・販売ならびにサービスの提供

アルミナ化合物

アルミニウム塩及び特殊化学品(酸・中・アルカリ性)等の製品の製造・販売。主な用途は用・排水処理、土木用添加剤、紙パ用添加剤など

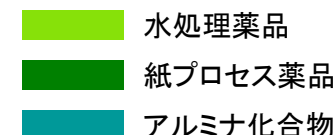
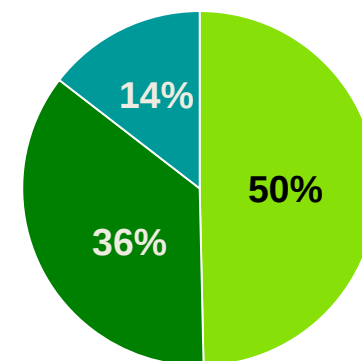
売上高
(13年度)

約177百万ユーロ(約242億円*¹)

従業員数

約464人

(ご参考)2013年度売上高内訳



注:

*1ユーロ/円の為替レートは1ユーロ136.65円で換算

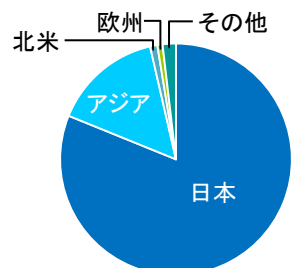
3. 本件の戦略的意義

地域及び技術・商品の両面で高い補完性を有する

地域
補完性

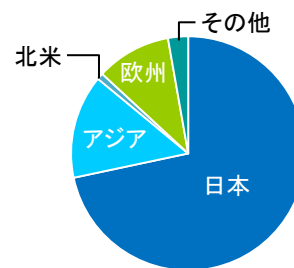
- 日本を中心とするアジアに強い当社が買収対象事業の欧州を中心とする顧客基盤と生産拠点を獲得することで海外事業の強化を加速

2013年度地域別売上高



合計: 1,781億円

買収後



合計: 約2,018億円 *1,2

グローバル
プレイヤーとしての
飛躍

技術・商品
補完性

- 特色ある商品のクロス・セルによるトップラインの伸長
 - ・ 当社: 逆浸透(RO)膜処理薬品
 - ・ BKG社: 紙プロセス薬品、アルミナ化合物
- 技術共有による商品力の強化
 - ・ 当社: センシング技術
 - ・ BKG社: ポリマー製造技術

総合
ソリューション
能力の深化

注:

*1 ユーロ/円の為替レートは1ユーロ136.65円で換算

*2 中国における一部事業の売上高および内部取引の相殺消去額(約3百万ユーロ)は地域別売上高が不明なため除外

2015年3月期 上期営業利益増減分析

(億円)

110



* 増収効果と原価率変動影響は、売上総利益率を用いて算出しています。

栗田工業株式会社

■ U R L ■ <http://ir.kurita.co.jp/>

■ M A I L ■ ir@kurita.co.jp

【 将来見通しに関する注記事項 】

本資料に掲載されている計画数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。